

「統括DMAT」に登録されました

呼吸器外科部長・DMAT 原田 洋明



6月13日(月)・14日(火)に福岡市で行われました令和4年度統括DMAT養成研修に院長先生ならびに当院DMAT隊長の森田先生から県へご推挙頂き、参加してきました。本研修にはDMAT隊員の中で都道府県から推薦された97名が全国から参加しており、広島県からは2名(原田と広島大学病院の医師)が受講しました。

DMATとは、Disaster Medical Assistance Team(災害派遣医療チーム)の頭文字をとっており、災害の急性期において早期に機動性をもって活動できるトレーニングを受けた医療チームを意味します。(図1)

実際の災害時には多数のDMATが参集するため、各隊が機能的・組織的に活動できるようにするため、DMAT本部としてまとめ役・指揮役が必要であり、この本部運営を統括DMATが担うことになります。

2日間におよぶ研修はコロナ禍において2年ぶりの開催でした。災害時に参集したDMATに対する指揮や関係機関との調整等を行う組織として、DMAT都道府県調整本部のほか、必要に応じてDMAT活動拠

点本部、DMAT・SCU本部、DMAT域外拠点本部等に加え、DMAT病院支援指揮所及びDMAT現場活動指揮所が設置されます。それぞれの本部運営について過去の事例について学び机上演習が行われました。そして最後には実際に災害が起きたシナリオ仮想のもとに、初めて集う参加メンバーと本部を立ち上げ、役割分担をし、つぎつぎに生じる状況変化について情報を収集し、現場からの要請に対応し、参集してくる人員や物資を有効に分配するなどの本部運営のシミュレーションを2時間程度かけて行いました。

研修は無事終了し、統括DMATが所属していることを示す「DMAT本部」幟旗を受け取り、広島中央医療圏においてはこれまで不在であった統括DMATとして原田および当院が登録されました。統括DMAT登録者のいるDMATは、災害時にDMAT本部の責任者および責任チームとして活動するため、当院は災害発生時にDMAT活動拠点本部を立ち上げ運営するという、いわゆる実働部隊としてのDMATの役目を超える責務を担う事になりました。

図1 災害派遣医療チーム(DMAT)

- ・災害急性期(発災後48時間以内)に活動を開始できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム
- ・平成17年3月から厚生労働省の災害派遣医療チーム研修事業により整備を開始。
- ・令和4年4月1日現在 15,862名(医師:4,662名 看護師:6,590名 業務調整員:4,650名)
- ・1,754チームが研修修了済
- ・1チームの構成は医師1名、看護師2名、業務調整員1名の4名を基本。

